

A 47 野菜中におけるビタミンC量の季節変動について
武庫川女大家政 宮崎由子

目的 近時、野菜のなかには一年を通じて市販されているものが多く、これらの周年野菜の成分値の年間変動について興味をもたれている。そこで数種の野菜のビタミンC量を一年を通じて測定し、その季節変動を調べようとする。

方法 ピーマン・トマト・ナス・キュウリ・キャベツ・レタス・ハクサイ・ホウレンソウの8種の野菜中の還元型ビタミンC量 ($\text{mg}/100\text{g}$) をインドフェノール・キシレン法によって測定した。

結果 まず、ビタミンC量の年間の平均値 (\bar{x})・標準偏差 (Sx)・変動係数 ($C.V. = Sx/\bar{x}$) を算出した。変動係数は、ホウレンソウが最大であり、ナス・ハクサイ・ピーマン・キュウリ・トマト・レタスの順に低くなり、キャベツが最小であった。ビタミンC量の年平均の区間推定値を求めると、ピーマン>ホウレンソウ>キャベツ>ハクサイ>トマト>キュウリ>ナス>レタスとなった。季節変動のパターンを比較するために、年平均値に対する各期日測定値の比率 ($P = \bar{x}_i/\bar{x} \times 100$) を各試料ごとに算出した。Pの値は、ホウレンソウでは夏期に低く冬期に高くなり、トマト・ナス・キュウリでは冬期に低い傾向がみられた。キャベツ・レタスでは季節変動はあまりみられなかった。さらに、測定期日が近似する各試料の測定値について、それぞれ2試料を組み合わせ、測定値相互間の相関係数を算出し、各試料間の季節変化のパターンの類似性を調べた。その結果かなり有意性の高い正または負の相関がみられる場合があり、季節変化が類似する傾向のもの、あるいは季節変化が全く正反対の傾向のものなどを明確にすることができた。